支える人を支える

京都の福祉

『京都の福祉』は福祉関係者に福祉の課題や情報を提供する「京都府社会福祉協議会」(府社協)が発行する広報誌です

2020 1月号 no.583

ボランティアに新たな人を呼び込む挑戦

▼4ページ

●今月の「ふくしびと」は保育教諭・藤村苑子さん ▼7ページ

●京都府社会福祉協議会会長　年頭挨拶

京都府知事　年頭挨拶 ▼2ページ

もえくさ

T.T

新年あけましておめでとうございます。いよいよ東京五輪・パラリンピックイヤー。日経クロストレンドによると「パブリックビューイング」が今年のヒット予測の1位だ。

スポーツといえば、昨年のラグビー日本代表のスローガン「ワンチーム」。これは、一色に染まるという意味ではなく、個の違いを認め合って、多彩でありながら、ひとつになるという意味も含まれているそうだ。もちろん、簡単にワンチームになるものではないだろう。しかし、違いや多様性を認め合うことが大きな力になるということは、福祉に携わる私たちにとっても勇気づけられることだ。

今、京都府社協では第5次中期計画の策定に取り組んでいる。職員がどんな地域社会をつくりたいと思っているのかを話し合う中で、共通することの一つに「多様な価値観・生活文化への共感や理解が広がっている社会」がある。

パラリンピックを通して、個の違いや多様性が大切にされる社会への理解がさらに広がる一年になることを願う。京都府社協もどのような役割を果たすのか、しっかりと考えたい。